

No. 1439

交通安全フェア

— 東京・北の丸公園 —

9月21日から始まる秋の交通安全運動を前に、18日東京北の丸公園の科学技術館で交通安全フェアが開かれました。館内は8つのコーナーに分かれており、未来の交通安全社会のしくみや、道路情報の最新技術などが展示されています。ドライバーの街では科学的データに基いた運転技術のテストコーナーや、誰でも楽しめる運転ゲームコーナーが設けられました。走行中地震発生との体験コーナーでは皆一様に大きな揺れにびっくりした様子。この他、ドライバーの基本であるシートベルトの着用、運転マナーなどもわかりやすく説明されています。これはハイウェイの落しもの。大事故にもなりかねないだけにドライバーは細心の注意を払いたいものです。昨年一年間で東京都内だけでも交通事故による犠牲者は340人に登っています。今年は更に増えることが予想されています。交通安全には私たちひとりひとりが充分注意したいものです。

明日に向けて

— 愛知・名古屋 —

不自由な身体に負けず頑張る続ける身体障害者たち。愛知県名古屋市に住む宮田鈴枝さん53才。13才の時突然発病し、以来慢性関節リュマチと闘いながら仕事に励む毎日だ。今、宮田さんが不満に思うことが一つある。それは、去年あれ程までに盛りあがった障害者年が、たった一年でもうすっかり影をなくしてしまったことだ。こんなことを思うのも宮田さんが、愛知県の障害者の生活と権利を守る会の会長という要職にあるからかも知れない。現在宮田さんは国際障害者年をとりあえず、10年間続けていきたいと、仲間たちと運動にとり組んでいる。今年は去年に引き続いて名古屋市内の久屋公園で、障害者と県民のふれあいフェスティバルを開くことだ。仲間たちも皆大賛成だ。障害者の全員が参加することに決まり、その準備もすべて整った。フェスティバル開催当日の9月19日、早朝から降り出した小雨は続いた。強行できない天候ではなかったが身体の弱い障害者が万一風邪でもひいたらいけない、と中止された。宮田さんたちのこれまでの努力は稔らなかった。しかし、皆は負けてはいない。これからも明日に向けて力強く生き続ける。